

Finance NEWS

2019 年亥年 年始にあたって

2019.1.5

あけましておめでとうございます。ファイナンシャル
コーチの城戸です。
今年もよろしくお願い申し上げます。

年末年始はいかがお過ごしでしたか。私は年賀状の制
作発送だけすることが多いのですが今年はそれもまだ
で（お送り頂いた方申し訳ございません。）、どうか
この最初の週末にしようと思っているところです。
転居に伴う様々なイベントをこなしてようやく片をつ
けたのがつい最近なので、どうかお許ください
（苦笑）。

今年は5月に年号改元が予定され、10月1日には消費
増税や7月には参院選挙も行われます。足元の景気は
残念ながら悪い方向に向かっているようですが、昨年
最後に家計に関して少々厳しいことに触れたばかりな
ので今回は閑話休題。

いま話題の入国管理法改正から考えてみました

わたしは外国人の方が日本で暮らすのに困らないお金
コンサルタント、就労支援コンサルタントとして、多
くの外国の方と会う機会があるのですが、いま、わた
し自身も世の中的にも関心の高い、「入国管理法改正＝
外国人就労」について、書いてみたいと思います。

改正案そのものはどうも外国人を“安価な労働力”と
してしか見ないような
内容ではあります。
コンビニや外食、建設
現場などとくに多くの
外国人の方が働いて
います。



日本の伝統芸能を支える外国人が増加している

実は意外と知られていませんが、日本の伝統技能工芸
の世界でも外国人の方が活躍されています。
唐津焼にはアメリカ人の男性、京都の和菓子職人には

ドイツ人女性が。また普段は大学教授、もう一つの顔
として“能”の楽団監督という方もおられます。

日本人も海外の伝統芸能を支えています

では日本人が
外国の伝統技
能工芸に関わ
っていること
はないのか？
あります。

クラシック音

楽の音楽家、楽器演奏者や指揮者、バレエのダンサーな
どはまさに西洋伝統技能の世界です。フルートやヴァイ
オリンなど楽器を制作しているところも多数ありますね。



もっと直接的に日本の技術がクラシック音楽の伝統技能
を救ったケースもあります。元旦の夜、毎年継ぎされる
ウィーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコン
サートは有名です。が、ここで使われるウイナホルン
などウィーンフィル独特の楽器は、全て日本のヤマハが
作っています。もう40年も前、ウィーンでもその手の
楽器を作る職人はいなくなってしまいヤマハに頼み込ん
だ、ということだそうです。

オーストリアは大変保守的で、過去の遺産を大切にする
イメージがあります。ウィーンフィルが初めて女性の入
団を認めたのはなんと今世紀に入ってからというので
すから、かなりのコンサバだと思いますが、楽器制作に関
してはとくに国際化していたのです。

“能”の真髄を外国人が本当に理解してくれるのか？と
いった疑問がなくはありませんが、それを言うなら日本
人が本当にクラシック音楽を理解しているか？というこ
とになります。まずは世界中に日本の伝統技能工芸をも
っと知ってもらう必要があるかと思います。

こんな事を考えておりましたら、わたし私は自分の国の
ことをもっと勉強する必要があると気付きました。

KIDO FP Office

〒241-0835 神奈川県横浜市旭区柏町 77-1

website <http://www.fp-kido.com> e-mail info@fp-kido.com